

横田の整備士、スーパーギャラクシーの整備訓練を実施 *Yokota Airmen train on 515th AMOW C-5M Super Galaxy*

November 19, 2020

By Airman 1st Class Tyrone Thomas
374th Airlift Wing Public Affairs

第730航空機動中隊の整備士たちは、横田基地で11月2日から12日までの10日間、ハワイ州パールハーバー・ヒッカム統合基地所属C-5Mスーパーギャラクシーの整備訓練を実施した。

横田基地は、太平洋地域を飛行する航空機の給油地としてしばし使用される。つまり、さまざまな経由機が横田基地に迂回着陸すると共にそれらの飛行機の整備が必要になることがある。

「日本、ラオス、タイなどの太平洋地域の国々がC-5Mのピットストップ（整備のための着陸地）になる可能性があるため、この航空機についての知識を身につけることは重要だ」とヒッカム基地の第515航空機動航空団地域訓練センター指導官アドリアン・サエターン軍曹は述べた。

太平洋の多くの基地では、C-5M専任の整備士がいないため、必要に応じて横田の整備士が修理にあたっている。

「特定のプラットフォームでの作業を積極的に行わないと、体で覚えた記憶が失われてしまう。そのため、この訓練は非常に重要で価値のあるものだ。これらの作業を日常的に行うのではないにしても、いざという時にすぐ実践できるようになる」と第730航空機動中隊整備士主任クリス・ハニフ大尉は述べた。

第515航空機動航空団の隊員は、横田の整備士に対し、機体全体のさまざまなシステムの診断方法についての研修も行った。

第374装備即応中隊、施設中隊の消防士、嘉手納基地からの一時出張中の空兵、また自衛官も参加し、スーパーギャラクシーが横田基地に一時着陸した際に対応する必要性のある、あらゆる関係機関に航空機の機能を熟知してもらうことを目的に、幅広く訓練を実施した。

「今回の訓練の目的の一つは、多技能の空兵のコンセプトを取り入れることだ。大規模な訓練を必要としなくても、インド太平洋地域の同盟国の支援や防衛など、大きなメリットをもたらす運用を学んでもらいたい」とハニフ大尉は語った。

